

地域ふれあい
プロジェクト

ボランティアグループ交流会事業

～ つながって 見守ろう 支え合おう ～

- 関係機関と協働で、除雪・地域の茶の間・ボランティアをテーマに全6回の交流会や講演会を開催し、見守り活動や交流拠点づくりなどの地域の支え合いにつながる活動を推進。(参加者のべ465人 参加団体のべ194団体)
- 見守り・支え合いの啓発を目的に地域福祉の活動者向け「地域のみまもりハンドブック」を作成。今後、ボランティアグループ等に配付し、見守り活動の手引きとしてもらう。

プロジェクトの流れ

第1回除雪ボランティア交流会
講師 中越防災安全推進機構
参加者 34人(19団体)

地域の茶の間交流会
講師 地域の茶の間うちの実家
参加者 68人(29団体)

ボランティアグループ交流会
講師 新潟お笑い集団NAMARA
参加者 105人(45団体)

第2回除雪ボランティア交流会
(活動者会議)
参加者 17人(8団体)

ボランティアグループ講演会
講師 大阪ボランティア協会
参加者 68人(33団体)

ふれあいシンポジウム&地域支え合い合同交流会

コーディネーター 新潟お笑い集団NAMARA
パネリスト 中越防災安全推進機構
地域の茶の間うちの実家
大阪ボランティア協会
参加者 173人(60団体)



地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例

①区町村名	新発田市
②人口（※1）	101,767人 ()
③高齢化率（※1） <small>(65歳以上、75歳以上それぞれについて記載)</small>	65歳以上：26.89% () 75歳以上：15.0%
④取組の概要	新発田市内で活動するさまざまなボランティア団体や関係機関等交流会を開催し、交流会を通じて各団体がお互いを知り、ゆるやかにつながっていけるよう、また、それぞれの普段の活動にちょっとプラスして、ひとり暮らし高齢者等のために「地域の見守り」など、できることをみんなで考えてもらうきっかけとする。
⑤取組の特徴	生活支援や高齢者・障害者支援など福祉分野にとどまらず様々な分野のボランティアグループに参加いただくことで、見守りのネットワークをよりきめ細かいものとし、地域全体で高齢者等を支える体制づくりにつなげることを狙いとしている。
⑥開始年度	平成24年度
⑦取組のこれまでの経緯	高齢者や障がい者をはじめ「誰もが安心して暮らせる地域」を目指し、見守り活動や交流拠点づくりなど地域の支え合いにつながる活動を推進するため、除雪・地域の茶の間・ボランティアをテーマに全6回の交流会等を開催した。交流会のまとめと今後の見守り・支え合い活動の手引として地域福祉の活動者用「地域のみまもりハンドブック」を作成した。
⑧主な利用者と人数	・事業参加者 延べ465人（延べ194団体）
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	主催：新発田市 共催：新発田市社会福祉協議会 協力：新潟NPO協会・新潟お笑い集団 NAMARA ・(社)中越防災安全推進機構・常設型地域の茶の間「うちの実家」・(福)大阪ボランティア協会
⑩市区町村の関与（支援等）（※2）	市が新発田市社会福祉協議会に委託して実施。事業の企画・運営、「地域のみまもりハンドブック」の作成について市も関わり、社協と協働で実施した。委託料1,983,834円。
⑪国・都道府県の関与（支援等）（※3）	新潟県地域支え合い体制づくり事業補助金1,983,000円を活用。
⑫取組の課題	交流会参加者が見守り活動に自主的に取組み、それを継続できるよう工夫して意識付けを行うと共に、地道に働きかけていく必要がある。
⑬今後の取組予定	今年度実施予定の地域支え合い団体の集い(仮)、ボランティア交流会などにおいて昨年度作成したハンドブックを活用し、各ボランティア団体に見守りへの意識付けを行い、より実践的な見守り体制づくりへとつなげていきたい。
⑭その他	
⑮担当部署及び連絡先	新発田市 高齢福祉課 介護指導係 TEL:0254-22-3101

※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を()内に記載してください。

※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。

※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。